



特集

大分県社協70年の歴史、そしてこれからに向けて

- 2 大分県社協70年の歴史、そしてこれからに向けて
地域共生社会への挑戦 ～ 孤立ゼロ社会の実現に向けて ～ / 小地域福祉活動の推進
頻発する災害と災害ボランティアセンター
災害時要配慮者支援と災害支援組織の常設化
フードバンクおおいたの設立・運営 / 子どもたちへの支援とボランティアの推進
外国人介護人材の確保・育成 / 生活福祉資金貸付制度と緊急小口資金等特例貸付
県社会福祉介護研修センター / 大分県身体障害者福祉センター“あすぴあおおいた”
誕生から60年 ～ 大分県社協善意銀行 ～ / 座談会 一 次の10年に向けて 一
- 8 感動のひととき! 第35回全国健康福祉祭えひめ大会
2,302人が参加! あすぴあフェスタ2023開催
- 9 子育て環境セミナー
一 知的障がい児者生活サポート協会 一 「令和5年度 ハロウィンパーティー」開催
- 10 コロナを乗り越えた先の活動を話し合おう!
たのしもう! ボランティア・NPO笑顔の輪2023 第20回大分県ボランティア・NPO推進大会
- 11 新しくフードバンク応援自動販売機が登場! / 寄附・寄贈いただいた皆様
- 12 ひろがる善意の輪 / 令和5年度 賛助会員



ホームページ



Facebook



Instagram

<https://www.oitakensyakyo.jp/>

大分県社協



この広報誌は、共同募金の助成を受けて発行しています。

大分県社協 70年の歴史、そしてこれからに向けて

大分県社協は令和3年に創立70周年を迎えました。それを記念した記念誌を昨年発行し、関係各所の皆様へお届けしたところですが、より多くの方に県社協の歴史とこれからについて知っていただきたく、今回は「70周年記念誌特集号」として11の主要事業について、担当者のコメントを添えてお届けします。

地域共生社会への挑戦 ～ 孤立ゼロ社会の実現に向けて ～

地域共生社会の推進では、「孤立ゼロ社会」を目指し、相談支援と参加支援、地域づくりの一体的な推進が大事とされています。本会ではこれに先駆けて「大分県における新しい時代に対応した福祉の提供ビジョン」を提案し、「相談支援包括化推進員」と「地域力強化推進員」の養成を継続的に実施してきました。

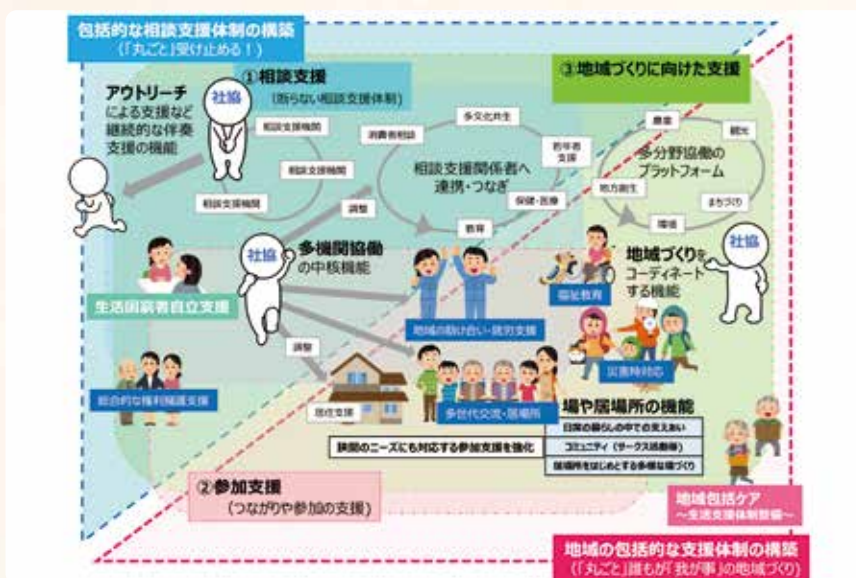
最近では、新たに「重層的支援

体制整備事業」も開始され、各地で包括的な支援体制整備に向けた取り組みが進められています。令和5年度には大分県版福祉の提供

ビジョンを第2版として再編集し、地域共生社会に向け今後の福祉事業が一層推進するよう、取り組みを続けていきます。



大分県版の福祉ビジョン (第一版)



大分県版の福祉ビジョン (第二版)

小地域福祉活動の推進



地域共生社会の実現には、一人ひとりが主体性を発揮し、地域の課題に対する役割を分かちあう「小地域福祉活動」が重要です。これまで、ふれあいのまちづくり事業や100か所以上のサロンへの助成、調査・研究活動、コーディネーター養成事業を通じて小地域福祉活動の推進に努めてきました。特に、別府市でのモデル事業に参加し、そのプロセスや効果をまとめ、地域へ提供して普及を図ってきました。

今後も活動のベースとなる福祉教育の啓発を図りながら、地域の創意・工夫に基づいた支え合い活動の活性化を促進していきます。



地域共生社会とは、地域に住む人たちがより良い幸せを感じる事のできる社会だと思います。県内でも様々な活動をとおり、人と人、人と地域がつながっています。地域の人達の思いに寄り添い、応援できるよう精進していきます。

(地域福祉部：吉岩)

頻発する災害と災害ボランティアセンター

災害が発生する都度、被災地域の迅速な復興と住民の安心な生活を目指し、被災市町村社協と協力して災害ボランティアセンターを運営。県内外の災害に対応し、ボランティア活動者とともに社協のネットワークを活かした包括的な支援を提供してきました。

今後も各市町村社協での研修やネットワーク構築を通じて災害への備えを進め、南海トラフ巨大地震に備えるためにも災害支援体制の強化と地域の連携強化を推進していきます。



災害時要配慮者支援と災害支援組織の常設化

災害時の要配慮者支援を強化するため、早期避難の啓発と大分DWATの体制充実に取り組んでいます。地域全体での防災意識向上のために、これまで130か所8,131人に研修を行い、地域の連携と理解を深めてきました。大分DWATは、一般避難所における要配慮者支援を担当し、53法人264人が登録。

また、「災害ボランティア・福祉支援センター」を令和4年度に立ち上げ、新型コロナウイルスの影響にも柔軟に対応。災害支援の進化に向け、地域の支援力の向上に注力していきます。



担当から
ひとこと

災害が忘れる間もなくやってくる時代、「被災者中心・地元主体・連携」の合言葉を忘れずに、これからも支援体制の強化を進めます。大規模災害に備えて、地元の皆さん、支援者の皆さんと一緒に前に進んでいきたいと思っています。

(県災害ボランティア・福祉支援センター：森)

フードバンクおおいたの設立・運営



都道府県社協として全国で初めて、平成28年にフードバンクを設立。子どもの貧困率が深刻な状況にあるなか、皆さまの協力により食の支援と食品ロス問題に対応してきました。

今後も、地域のつながり強化のための子ども食堂や食にお困りの困窮者に食品提供を行ない、食支援による支えあいのまちづくりと食品ロスの削減を目指していきます。



『食で支える笑顔のわ』を合言葉に、食品ロス削減と食にお困りの方や支援団体の皆さまに食品を届けています。皆さんの温かいご協力が地域の支えとなり、多くの笑顔をつくっています。食を通じた支えあいのまちを一緒に作りましょう！

(フードバンクおおいた：松尾)

子どもたちへの支援とボランティアの推進



平成27年から取り組んだ子ども食堂の普及・運営支援活動が成功し、現在、県内に120か所以上の子どもの食堂が確認されています。懸念された子どもたちの貧困や孤立に対応する一環として始まったこの活動は、今や地域の「だんらの居場所」として成長。

本会は、普及に向けて「だいふくKITCHEN」を主催し、その手引きをまとめて普及活動に努めました。

子ども食堂の数が増加する中で、地域との連携を強化するために、令和元年「おおいた子ども食堂ネットワーク」を設立。交流会や研修会の開催、支援者・団体との連携を通じて子ども食堂の支援を行い、その後、大分県とのクラウドファンディング事業では約600万円の寄附を得て、子ども食堂の運営に貢献しています。



子ども食堂の活動形態は様々です。運営者・スタッフの皆さんがそれぞれの形で、楽しく継続的に活動できるよう、また県内に子ども食堂のような「地域のだんらの居場所」が広がるように、ネットワーク事務局として取り組んでいきます。

(おおいた子ども食堂ネットワーク：甲斐)

外国人介護人材の確保・育成

今後の団塊世代の高齢化と生産年齢人口の減少に伴う介護職員の不足に備え、令和元年度から「外国人介護人材確保対策事業」を開始しました。人材受入れの課題として、高い日本語能力の必要性や他国との人材確保競争が挙げられているため、以下の3つの柱で対応しています。

1

受入れ準備支援

関係機関協力のもと、受入れ支援の協議会設置と研修会を開催。

2

来県者の定着支援

介護技術や日本語の研修、資格取得支援を行い、スキル向上と交流を促進。

3

新規人材の受入促進

介護職希望者への魅力発信や海外視察を通じ、受入れ拡大に向けた活動を展開。

現在、県内の医療・福祉分野で働く外国人は681名です。今後も、留学生や特定技能生等の外国人のさらなる受入れ環境の整備や定着支援に努めていきます。



県内の事業所や関係機関との緊密な連携、外国人スタッフの研修を通じたニーズ把握、そして現地情勢や制度に対する常時の情報収集をとおして、外国人介護スタッフが大分県を選び、長期にわたり働ける環境づくりに向け、日々努力していきたいです。

(施設団体支援部：佐藤)

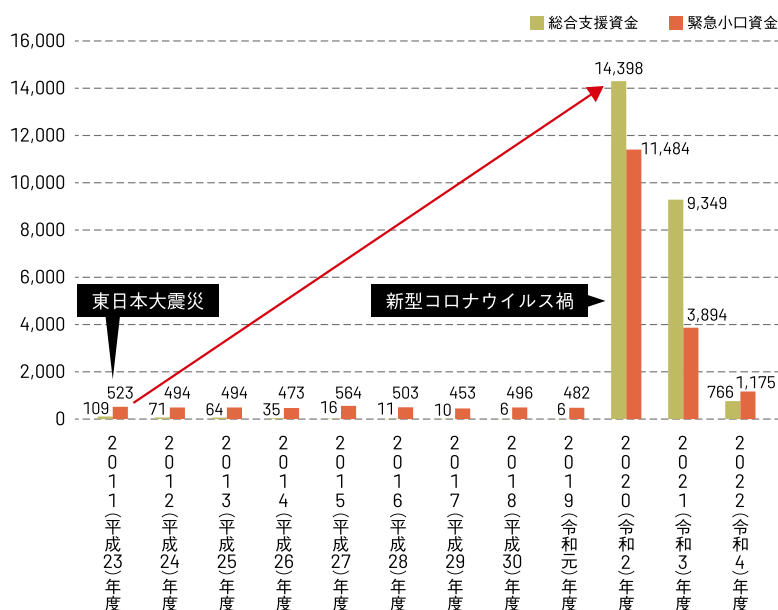
生活福祉資金貸付制度と緊急小口資金等特例貸付

生活福祉資金貸付制度は、経済的自立を目的とし、70年以上にわたり低所得者への資金貸付と生活支援を提供してきました。

近年では通常貸付とは別に、新型コロナウイルス感染症による収入減少者支援として、緊急小口資金等特例貸付を実施し、大分県では令和2年3月から令和4年10月末までに約4万件、約157億円の貸付を行いました。貸付件数が急増したことから、市町村社協や本会では多くの職員が迅速に対応しました。

特例貸付の実施により、多くの生活困窮者が救済されましたが、今後は生活困窮者支援のフォローアップや膨大な貸付債権の管理等が課題です。

総合支援資金及び緊急小口資金の貸付決定件数の推移



新型コロナウイルスの影響も少なからず残っており、未だ生活に不安を抱えている方が多くいます。県社協の強みである“柔軟性”を活かし、事務的ではなく一人ひとりに寄り添った支援ができるよう各関係機関と連携していきます。

(福祉資金部：森政)

県社会福祉介護研修センター

介護研修センターは令和5年に設立30周年を迎え、この期間に社会の変化や新型コロナウイルス感染症の影響に対応するために様々な工夫を凝らしてきました。令和4年度には、介護ロボットやICT機器に関する相談を受け付ける「介護ロボット普及推進センター」を開設し、無料の試用貸出や開発企業への取次を通じて福祉施設の現場を支援しています。

介護現場の働きやすさ向上や、介護が必要な方々とその支える家族が充実した生活を送れるよう新たな挑戦を続けています。



県介護DXアドバイザーとして、介護施設のDX化や業務改善活動を支援しています。「ゆとりある働きがいにあふれた職場づくり」、「質の高いケア提供の実現」等を通して、介護現場が全ての人にとって豊かな場所になることを目指します。

(介護ロボット普及推進班：小原 ことばる)

大分県身体障害者福祉センター“あすぴあおおいた”

大分県身体障害者福祉センター「あすぴあおおいた」は、障がい者の社会参加と自己実現を支援する拠点として、昭和61年開所以来、各種教室や施設を提供してい

ます。毎年開催される「あすぴあフェスタ」は、地域との交流の場として障がい者のQOL向上に寄与しており、毎年2,000人前後の参加者で賑わいます。



また、近年は新たな取り組みとして障がい者向けのeスポーツも導入しました。ドローンサッカーやビデオゲームを活用したeスポーツの普及をとおして、障がい者への理解促進を図るとともに、機器・ゲームソフトの整備や体験型講習会を計画的に実施することにより、障がい者自身の社会参加を促進することを目指しています。



障がいのある方とご家族様方向けにスポーツ教室や機能回復訓練の教室等を開催しています。利用者様方のニーズを聞き、新しいサービス等も取り入れながら、より多くの方に利用していただける施設を目指します。

(あすぴあおおいた：安東)

誕生から60年 ～ 大分県社協善意銀行 ～

大分県社協善意銀行は、昭和37年に設立された制度で、技術や金品、労力の預託を受け、支援を必要とする人とボランティアを

結ぶことを目的としていました。現在は金品や物品を寄贈いただき、社会福祉施設利用者や生活困窮者、災害被災者など、地域の



方々を支援しています。

これまで橋渡しをしてきた多くの善意。その精神はフードバンクや子ども食堂の推進といった取り組みにも受け継がれており、近年のSDGsに対する関心の高まりとも相まって、一層その重要性が増しています。

担当からひとこと



皆様からいただいたご寄附は、子ども食堂、フードバンク等の運営支援や、障がい者、子育て家庭等への支援活動を行っている団体への配分に使用させていただいております。今後も多くの方々に笑顔にするための活動に、ぜひご支援・協力をお願いいたします。

(総務・企画情報部：柴田)

衛藤 ● 10年後に向けて、どんな方針や活動を進めていきたいですか。

|| もっと情報発信に力を

松尾 ● 社協の“見える化”に力を入れたい。SNSやメディアと連携した情報発信を強化していく必要があるよね。

甲斐 ● そうそう。部所で分担して週替わりで情報を発信する取り組みが大事だね。

中野 ● 2040年に県人口が100万人を切る予想で、外部団体も整理が進む可能性があるだろうし、存在意義を示すためにも、情報発信や資金獲得がもっと重要になるんじゃないかな。

衛藤 ● 情報発信でネットワークが広がることで、SDGsに関連した活動に対する企業や団体の関心も高まってきていると感じます。

|| もっと地域に出る

森 ● それからやっぱり、歴史ある社協がこれまでの実績を活かして、県民から求められることはしっかりやっていかないとね。

甲斐 ● 県社協の強みは連携! それを活かして、自由な発想で新しい事業を考え、困った時に助けられる存在になりたいですね。

吉岩 ● 委託に縛られず、理想は市町村社協を支えるコンサル的な役割を果たせたらいいと思いますね。

甲斐 ● ドラえもののポケットのように、地域の課題に対応できるツールをたくさん提供したいな。

|| もっと横の連携を

吉岩 ● まずは県社協内部での横の連携が必要だと感じますね。

甲斐 ● 共通認識を持つって大事。他部所の事業について興味を持つことや知る機会を設けて、ファンドレイジングなど横断的に取り組む機会が増えたらと思います。

中野 ● 縦割りではなく、気軽に相談できる環境づくりを進めていきたいですね。横のつながりの土台はできつつありますので。

一次の10年に向けて

座談会

記念誌作成にあたり、入職10年未満の職員が今後について話し合いました。



吉岩 佐藤 甲斐 衛藤 中野 森 松尾

佐藤 ● 広報啓発班などの活動は良い例だと思います。新しい事業を考えるプロジェクトチームを組んで、現場に出て地域のニーズを感じ取り、柔軟に対応することが必要だと感じます。

森 ● ともに議論や行動を繰り返す中で、県社協を必要とされる存在に育てられたらいいな。

衛藤 ● 様々な意見が出ました。まとめると「職員一人ひとりが外に出て、活動を見える化しながら活性化させ、部所横断的に連携することで、必要とされる県社協になっていこう」という意気込みを感じました。先輩方の歴史を引き継ぎ、頑張っていきたいと思います!

感動のひととき!

□ 第35回 □

全国健康福祉祭 えひめ大会

“ねんりんを重ねた愛顔 伊予に咲く”のテーマのもと、10月28日から4日間、愛媛県内各市町で開催された「ねんりんピック愛顔のえひめ2023」。大分県から総勢150名を超える選手が18種目の競技に参加し、熱気と感動に包まれた4日間の祭典となりました。

剣道が輝く! 全国3位の偉業

選手たちは日頃の鍛錬の成果を余すことなく発揮し、その中でも剣道チームが全国3位に輝き、記録に残る瞬間となりました。また、ゴルフでは団体戦6位で優秀賞を受賞しました。勝敗もさることながら、全国から集まった選手たちとの熱い交流が、大会を一層特別なものにしました。

齋藤隆輝さん、洋画部門で銅賞を獲得

美術展では、洋画の齋藤隆輝さんがその卓越した才能で銅賞を手に入れました。作品は芸術の力と美の追求が融合したもので、会場に訪れた多くの人々を魅了しました。



2,302人が参加!

あすぴあフェスタ2023 開催

令和5年10月29日に大分県身体障害者福祉センターであすぴあフェスタ2023を開催しました。

10時からのオープニングステージでは、Musicスペシャルライブや、変面ショー、子ども神楽やダンスなどが公演され、午後にはドローンやeスポーツ体験などの、多彩な催しを行いました。

また体育室では、同センターの利用団体によるフリーマーケットやおりがみ、切り絵、機織り、絵

手紙の体験などが行われ、利用者と地域住民の交流を深めました。

その他、体脂肪測定や健康診断等を行う「まちの保健室」、モルッ

クやスポーツ吹矢体験コーナーも設置。4年ぶりの開催でしたが、延べ2,302人の方が来場し、大盛況となりました。



子育て環境セミナー

10月31日、別府ビーコンプラザにおいて令和5年度子育て環境セミナーを開催したところ、地域において子育て支援に取り組む約400名の皆様に参加をいただきました。今回は、映画「弁当の日～めんどくさいは幸せへの近道～」の上映会、そして、「あなたは子どもに何を遺せますか」と題して、映画の製作総指揮・監督である安武信吾氏による講演をいただきました。

弁当の日とは、平成13年に香川県にある滝宮小学校から始まった取り組み。「家の台所で、子ども自身が自分の弁当をつくること。大人は決して手伝わないこと。献立から片付けまで、全部子ども自身でやること」。それが、「弁当の

日」。子どもたちは、「してもらう側」から「する側」に立つことで、笑顔や涙とともに成長していきます。そして、それを見守る大人たちは、子どもの成長を実感し、子育てに関する意識を変えていきます。この映画は、「弁当の日」を通じて繰り広げられる、あたたかなエピソードを紡いだドキュメンタリー。

参加者からは、「生きる上で欠かせない食と心のつながり、家族のつながりがよく理解できた」「食をとおして子どもに与えられること、大人が学ぶことがたくさんあるんだ」「もっといろんな所で弁当の日の広がってほしい」などたくさんの意見が寄せられました。

弁当の日の取り組みは全国各地に広がっています。



🔗 弁当の日応援プロジェクト

<https://bentounohi.jp/>

「めんどくさい」は幸せへの近道。自分の弁当を「おいしい」と感じ「うれしい」と思った人は幸せな人生を送れる人のようです。

— 知的障がい児者生活サポート協会 — 「令和5年度 ハロウィンパーティー」開催

11月3日、大分県知的障害児者生活サポート協会「令和5年度ハロウィンパーティー」を開催しました。

本パーティーは、障がいがあることで様々なイベントへの参加を



参加者からの声

本人はとってもとっても楽しみにしています。ウキウキしていました。

(ゴスペルは)聴き始めてすぐ涙がでてしまいました。子どもとコンサートなど参加できないので嬉しかった。

ためらっている会員に、周囲を気にせず芸術文化に触れて楽しんでもらうこと、会員やその家族同士で交流を図ることを目的としています。

今年は定員50名を超える申し込みがあったため、広い会場を確保し83名の皆様にご参加いただきました。

当日は「グレイスゴスペルミニストーリー」様によるミニコンサートや「渡辺あきら」様によるジャグリングパフォーマンスの他、お菓子の抽選会を行いました。ミニ

(手品では)舞台上で皿を回せて嬉しかった。

毎年楽しみにしています。親も年を取り外出する機会も少なくなってきましたが、このイベントが大変励みになっています。



コンサートではパワフルな歌声とゴッドスペル（神様からの言葉）から希望と元気をいただきました。ジャグリングパフォーマンスは、息をのむような技を披露いただき参加者も舞台上で技にチャレンジしました。参加者は終始笑顔で過ごされていました。

大分県知的障害児者生活サポート協会

とは？

知的障がいのある人たちとその家族が、地域や施設において安心・安全・安定した生活を継続できるよう、生活サポート総合保障制度および研修等を通じて、知的障がいのある人とその家族の生活の質の向上に寄与する活動を行っています。



コロナを 乗り越えた 先の活動を 話し合おう！

今年度、県内6か所で行ったブロック別連絡会では、県ボランティア連絡協議会とおおいた子ども食堂ネットワークが主催し、244人の参加者が集まりました。mottoひょうご事務局長の栗木剛氏が「くらしのなかの“貧困”をアレコレ考える」と題して講話。貧困がお金の問題だけでなく、心の貧困や人間関係の貧困など、さまざまな側面があることを強調しました。参加者は、身近な環境でどのような“貧困”が存在するかを共有し、異なる視点から捉え直すことができました。

講話をうけ、参加者同士でグループトークを行い、これから自分にできることや頑張ることを全員が発表しました。



参加者の声

講話を聴いて考えたこと、感じたこと

“くらしのなかの貧困”外ばかりに目を向けていたけど、まずは自分の中の貧困をもう一度考えてみようと感じました。

情報の貧困から気力の貧困へとつながる…様々な貧困はつながっていると分かりました。

自分が意識していた“貧困”とは違った視点で気づきが多かった。

たのしもう！

ボランティア・NPO笑顔の輪 2023

第20回大分県ボランティア・NPO推進大会

ボランティア精神の醸成と市民活動の活性化を目指して、1月23日に「第20回大分県ボランティア・NPO推進大会」を開催し、オンラインと会場あわせて約170名の方にご参加いただきました。

地域のお宝を大切に！

前半の基調講演では、特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンターの池田昌弘理事長から「地域のお宝＝地域の中にすでにあるもの、できていること」を大切に活動についてお話いただきました。地域のお宝を再発見して、これからの活動につなげていきたいですね。



4団体から活動発表

後半は、県内の活動発表を聞き、多様な立場の多様な活動について知る機会となりました。

- ① あまべお助け会（互助による移動支援の取組み）
- ② ボランティアグループひまわり
（施設ボランティアの立上げからコロナ禍を乗り越えた今の取組み）
- ③ ジャガリコ農園の会（地域のつながりの場となっている農園の取組み）
- ④ 東九州龍谷高等学校食物科（高校生の食育活動と地域交流の取組み）



新しくフードバンク応援自動販売機が登場！

ガイドードリンク株式会社様と県内の企業や施設のご協力により、新しい自動販売機を設置しました。デザインは「フードバンクおおいた」のキュートなオリジナルロゴマーク。売上の一部は、子どもたちや支援が必要な方々への食品購入、フードバンクおおいたの活動に役立てられます。

フードバンク応援自動販売機を見かけたら、ぜひ飲料を購入いただけたら幸いです。

今回、設置第一号の株式会社カノークス鋼管九州の柿田社長に一言コメントをいただきました。

現在の設置台数は2台です。
自動販売機の設置にご協力いただける企業や施設からのご連絡をお待ちしています。

株式会社カノークス鋼管九州
代表取締役社長 柿田直人さん

当社は、グループ全体で地域貢献型の自動販売機を設置し、そのCO₂排出量は実質ゼロで環境問題への取り組みも強化しています。社員はもちろん、毎日夕方に利用する住民の方もいらっしゃいますよ。



寄付型自動販売機の設置先が増えました！

(令和5年9月～11月末現在・敬称略)

子ども食堂応援自動販売機 —— ウェアハウス有限会社 (大分市)
フードバンク応援自動販売機 —— 株式会社カノークス鋼管九州 (中津市)
Bar087 (別府市)

ご協力いただいた
皆様に感謝
申し上げます。



寄附・寄贈いただいた皆様

令和5年6月～10月 ※掲載辞退者及び裏表紙掲載分を除く 50音順・敬称略

旭化成メディカルMT

イオン九州株式会社

NTT大分グループ

遠藤悟

大分県教職員組合

大分県教職員指定整備工場協議会

大分県こども・家庭支援課

大分みらい信用金庫

株式会社アシタエ

株式会社イズミ

株式会社大分放送

株式会社SYSKEN

株式会社セブン-イレブン・ジャパン

株式会社太豊テクノス

株式会社トキハインダストリー

株式会社梅豊社

株式会社富士設計

株式会社マルハン高城店

カルゲン製菓株式会社

きむら薬局

コープおおいた

国分九州株式会社

JAIFA

セブン-イレブン 大分木上店

セブン-イレブン 大分新春日町店

セブン-イレブン 大分新川町店

セブン-イレブン 大分滝尾店

セブン-イレブン 大分中央町4丁目店

セブン-イレブン 大分中春日町店

セブン-イレブン 大分錦町店

セブン-イレブン 大分弁天店

ZONE STUDENT BOOSTER

第一生命保険株式会社

チャイルドケアセンター

つむぎ急便

鶴崎商工女性部会

鶴崎臨海ライオンズクラブ

日本銀行

平松貴志

フェリッシモ

ホールインワン会

マルミヤストア

ミスターマックス宇佐店

ミスターマックス西大分店

持永産業株式会社

有限会社みどり調剤薬局

ゆめマート宇佐店

ゆめマート中津店

ゆめマート日田店

リゾートトラスト株式会社



ひろがる 善意の輪

昭和37年5月1日、全国で最初に誕生した本会の善意銀行は、各方面の深いご理解とご協力により支えられています。誰かを思いやる気持ちによって広がる善意の輪を一部ではありますがお届けします。(敬称略)

ホームページ、Facebook、Instagramにも掲載しています。ぜひご覧ください！



ホームページ



Facebook



Instagram

株式会社レイメイ藤井



子ども食堂へご寄贈いただきました。

新成建設株式会社



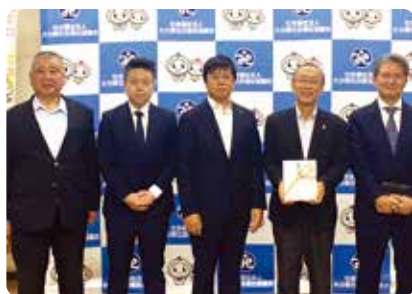
子ども食堂へご寄附いただきました。

一般社団法人 大分県労働福祉協議会



フードバンクへご寄附いただきました。

大分県遊技業協同組合



子ども食堂へご寄附いただきました。

荏隈校区ボランティア



フードバンクへ食料をご寄贈いただきました。

大分合同新聞社



フードバンクへ食料をご寄贈いただきました。

大分浄土宗有志



フードバンクへ食料をご寄贈いただきました。

株式会社サンリブ



フードバンクへ食料をご寄贈いただきました。

JAおおいた女性部



フードバンクへ食料をご寄贈いただきました。



いつもご協力をありがとうございます

令和5年度 賛助会員 (令和5年9月1日～11月末日加入者) —— 有限会社 EXIT company